

図12.1-1 IVTM支持部と評価対象部位

全体イメージ
評価対象部位拡大図

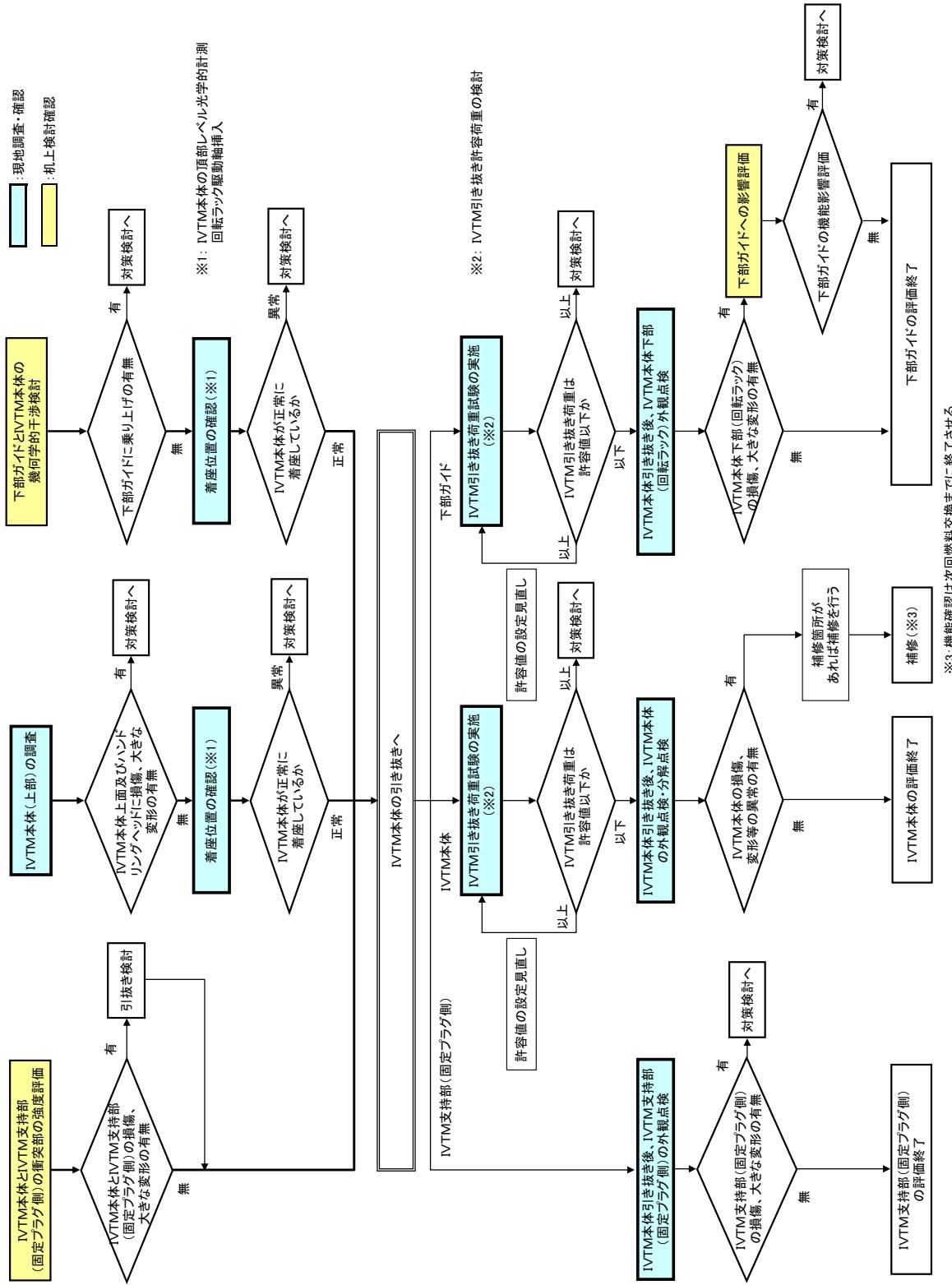


図12.1-2 健全性確認フロー

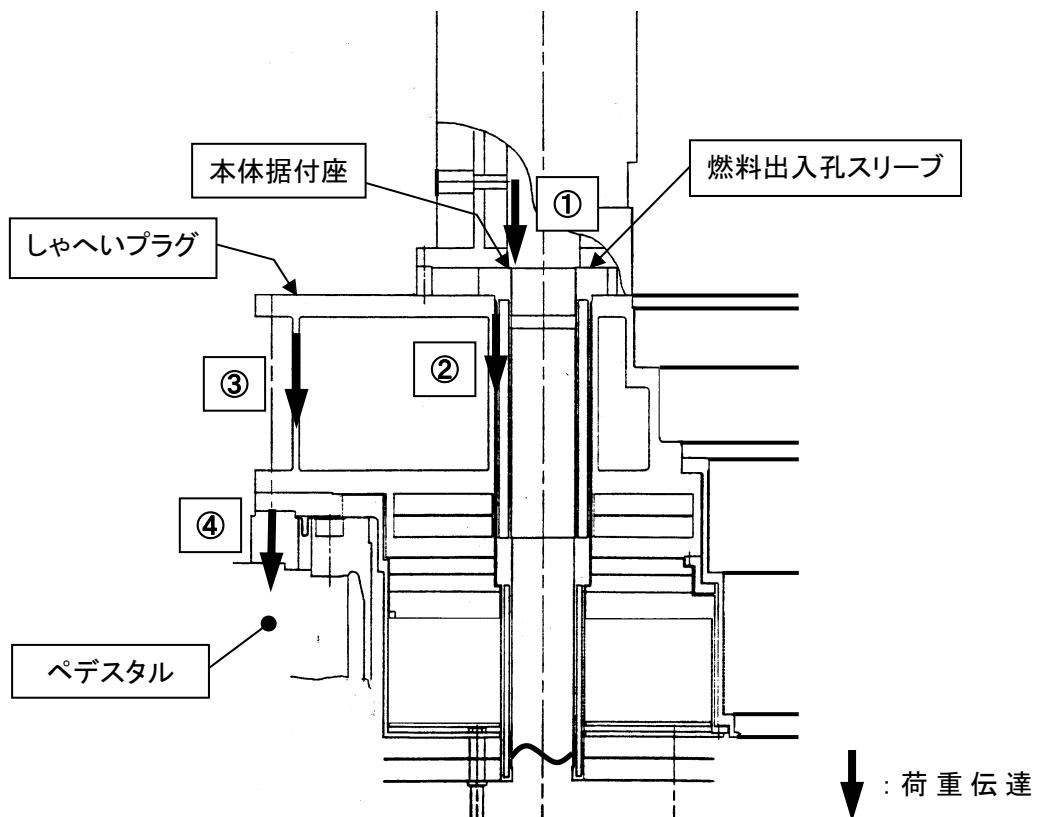


図 12.2-1 荷重伝達経路

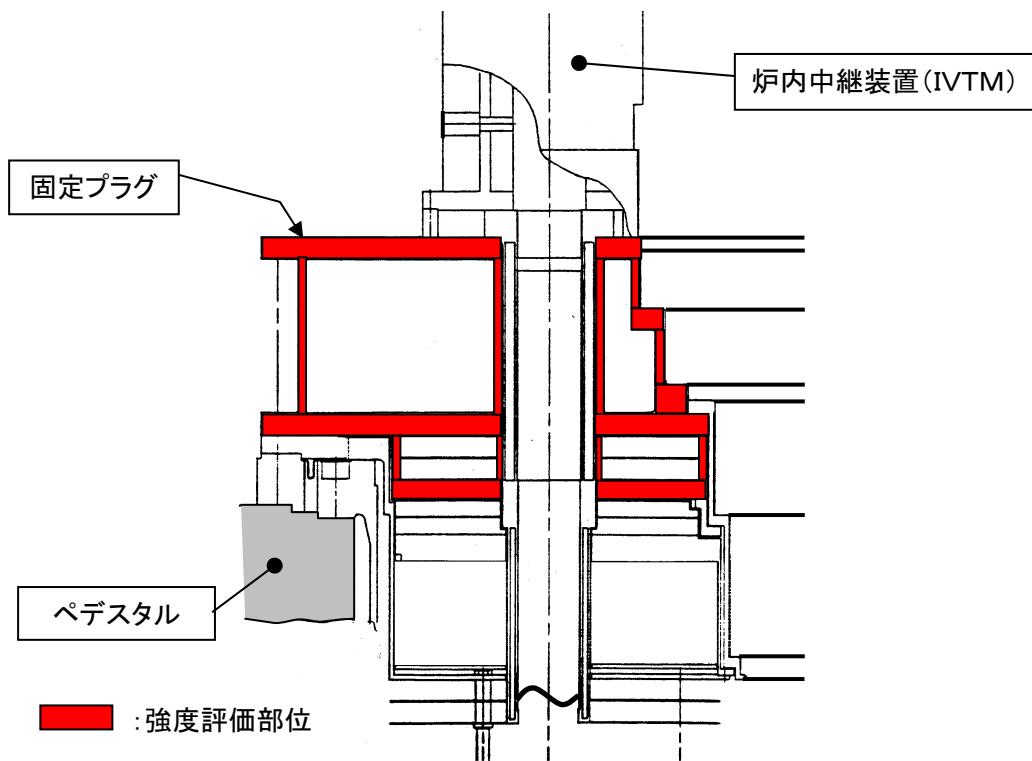
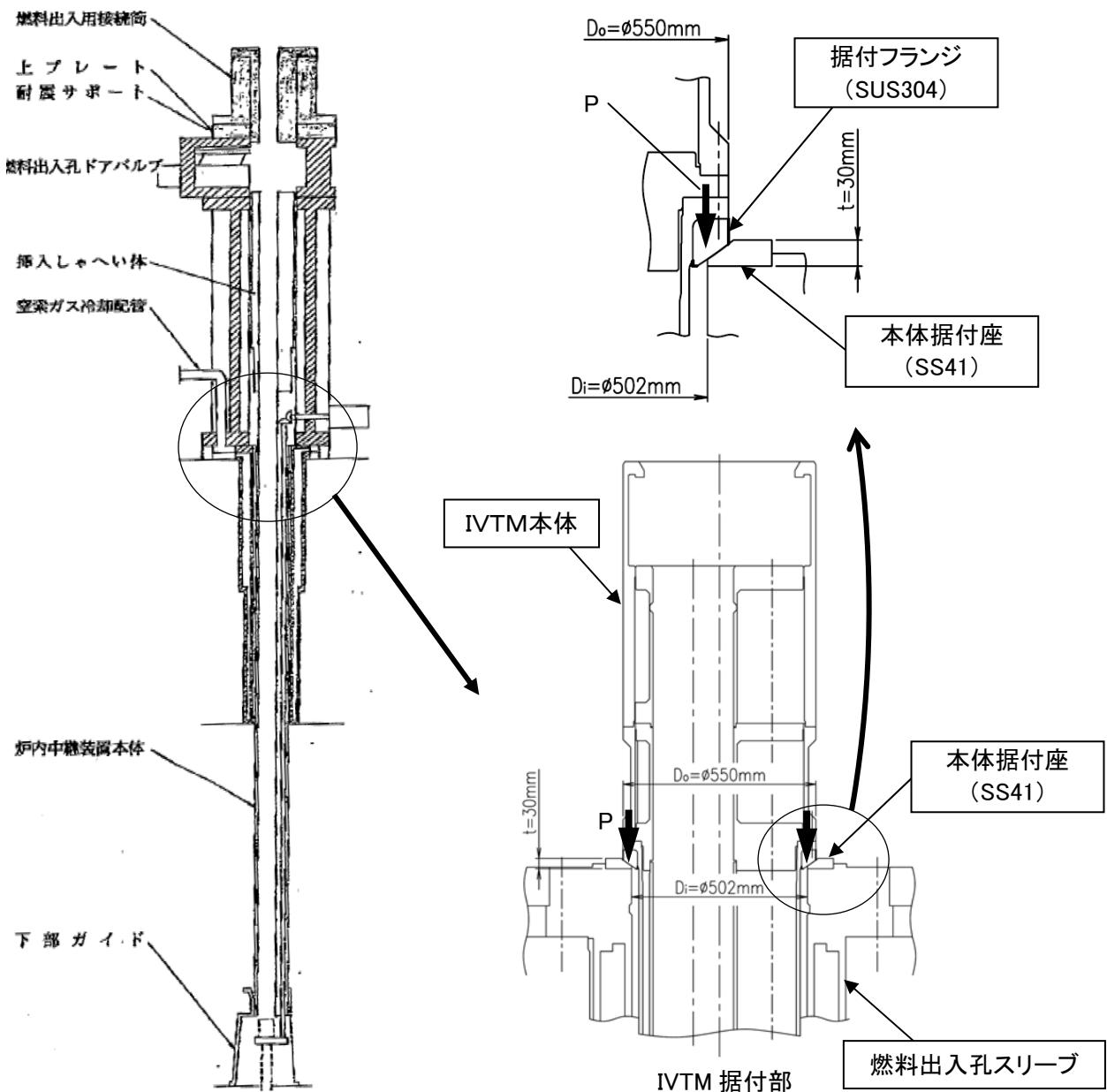


図 12.2-2 強度評価部位(設工認)



本体据付座(SS41)の評価目安値

(*1) 規格値(※2)とミルシート値から部材の持つ

実力値を算定

【規格値】 $S_{y_{RT}} = 235 \text{ MPa}$ (室温:40°C)

【ミルシート値】 $S_{ya_{RT}} = 304 \text{ MPa} (31 \text{ kg/mm}^2)$ (室温:40°C)

温度換算(室温:40°C→45°C)

【基準値】 $S_{y45} = 233 \text{ MPa}$ (45°C)

【ミルシート値】 $S_{ya1} = 301 \text{ MPa} (= S_{ya_{RT}} \times S_{y45} \div S_{y_{RT}})$ (45°C)

据付フランジ(SUS304)の評価目安値

(*2) 規格値(※2)とミルシート値から部材の持つ

実力値を算定

【規格値】 $S_{y_{RT}} = 206 \text{ MPa}$ (室温:40°C)

【ミルシート値】 $S_{ya_{RT}} = 235 \text{ MPa} (24 \text{ kg/mm}^2)$ (室温:40°C)

温度換算(室温:40°C→45°C)

【規格値】 $S_{y45} = 202 \text{ MPa}$ (45°C)

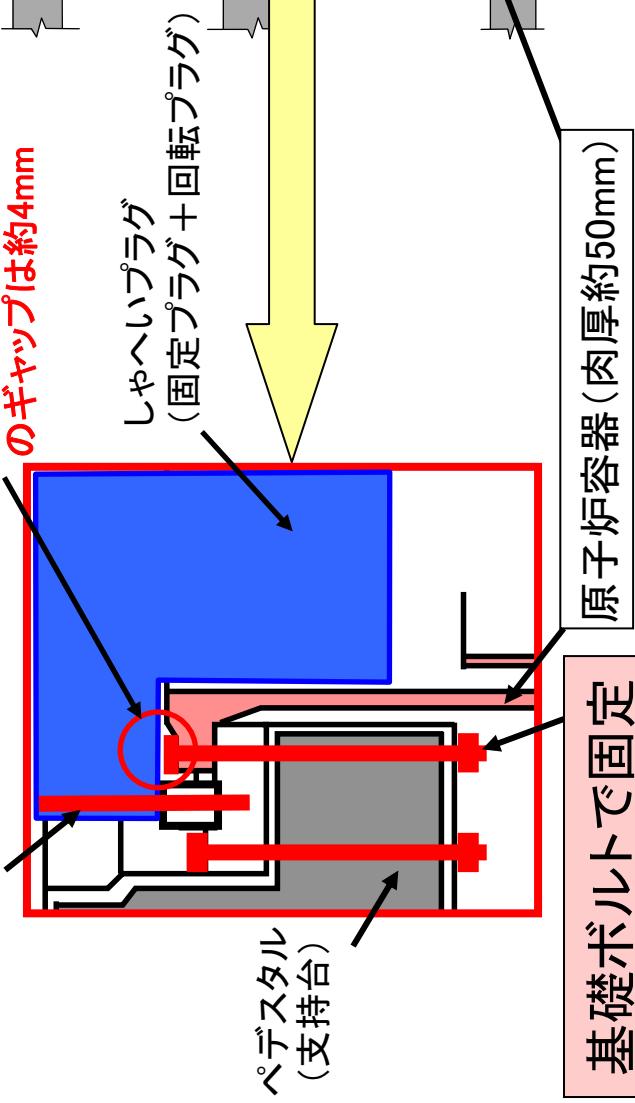
【ミルシート値】 $S_{ya2} = 231 \text{ MPa} (= S_{ya_{RT}} \times S_{y45} \div S_{y_{RT}})$ (45°C)

図 12.2-3 評価部位の構造と評価目安値(1/3)

原子炉容器の構造上の特徴

・上部フランジ部で、ペデスタルと基礎ボルトにより固定する吊下構造

しゃへいプラグ据付ボルト
原子炉容器のギヤップは約4mm



しゃへいプラグ(約400t: 固定プラグ約230t、回転プラグ約170t)の荷重はペデスタルで支持しており、直接、原子炉容器で支持していない

原子炉容器はしゃへいプラグからの上下方向及び水平方向の応力を直接受けない構造となっているため、IVTM本体の落下による原子炉容器への影響はない

原子炉全体イメージ

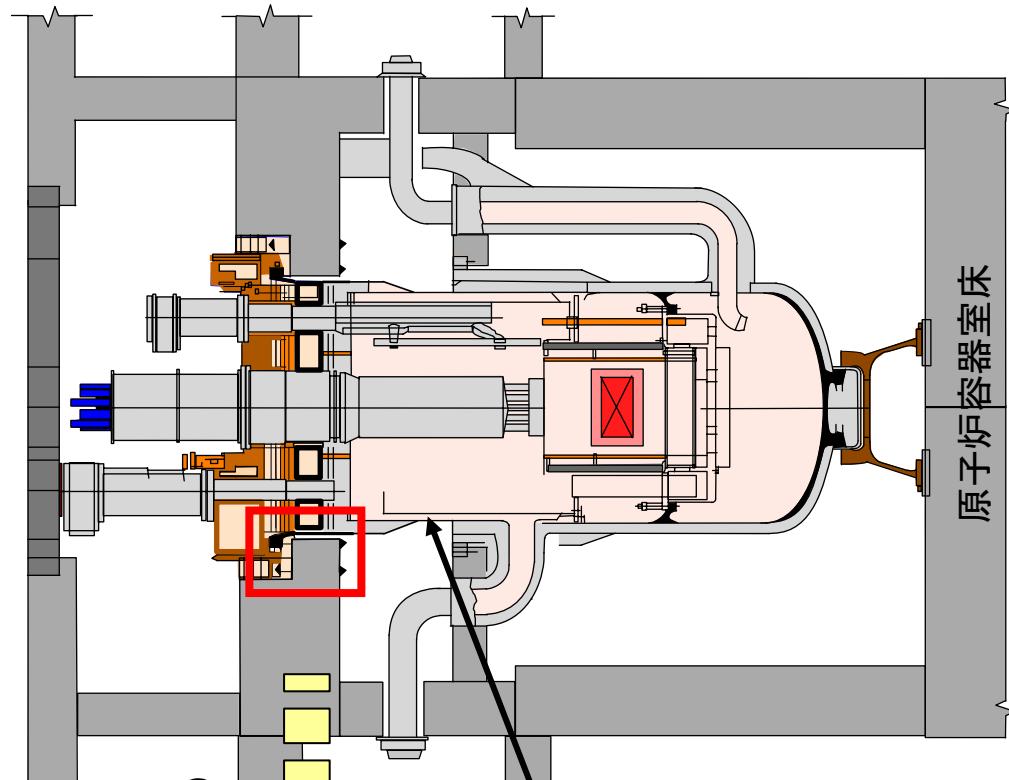


図12.2.-4 原子炉容器の上部支持構造と原子炉容器への影響

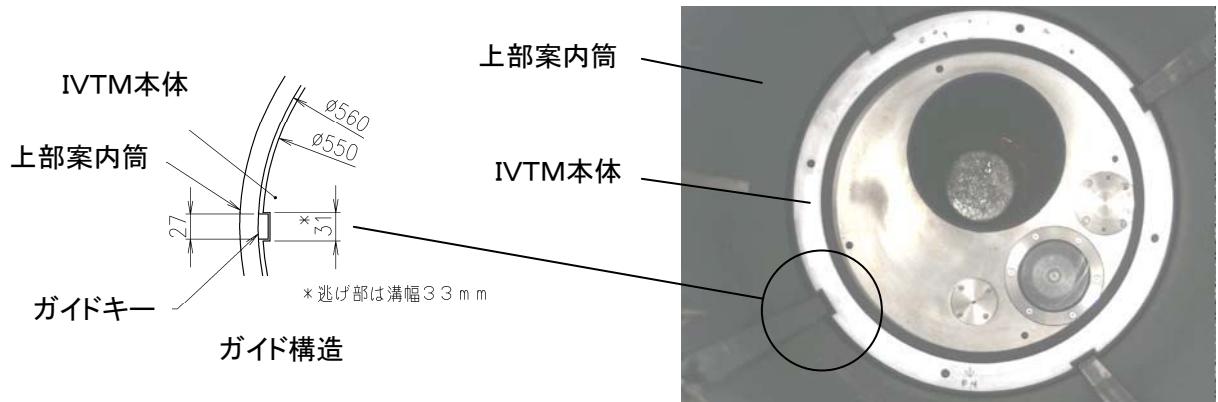
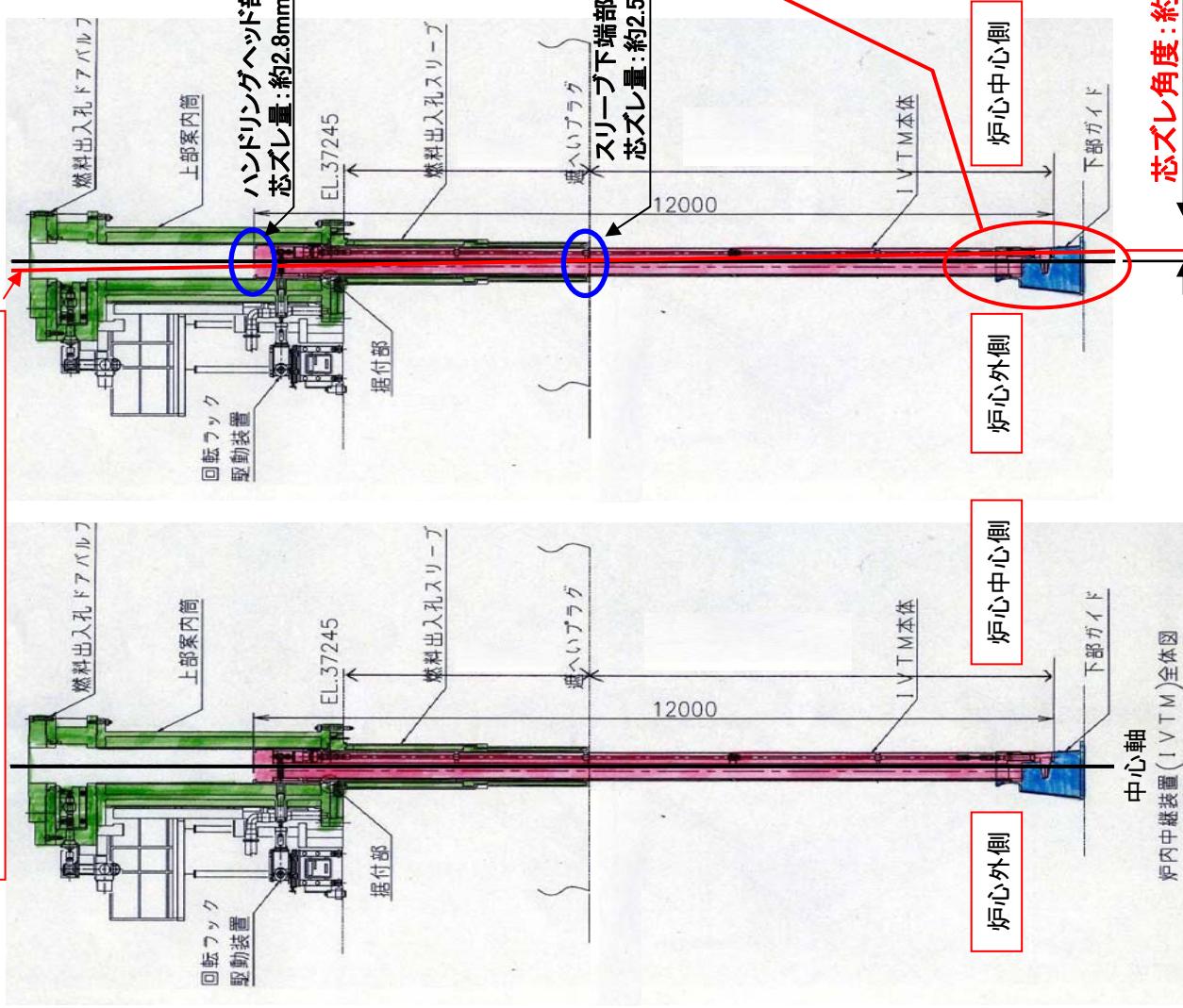


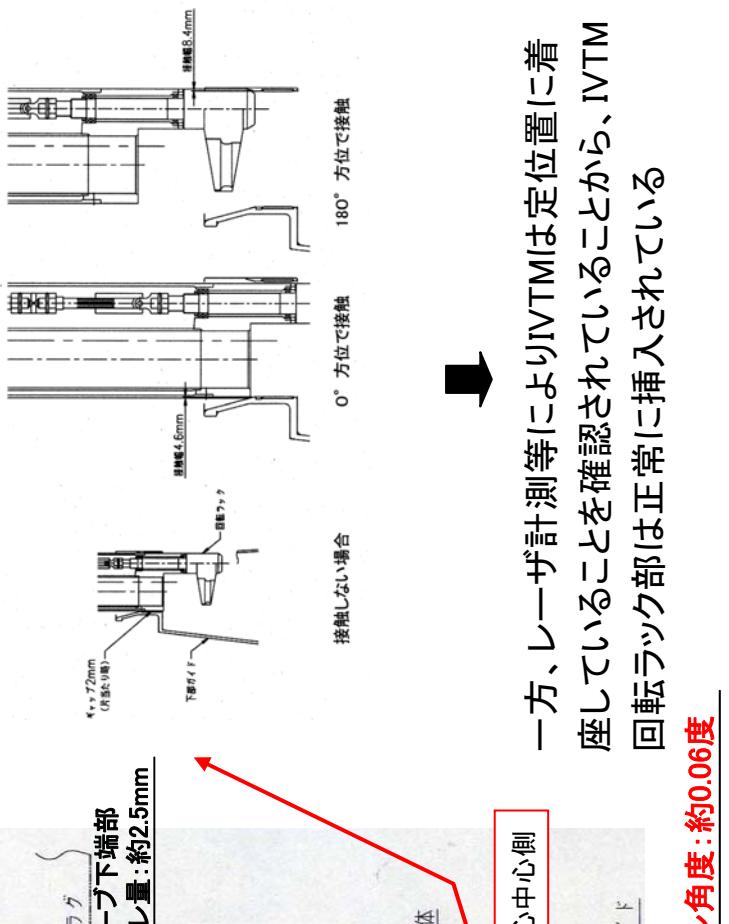
図 12.3-1 IVTM本体上面と上部案内筒内面のガイド構造

注意・傾きはイメージを描む為大きめの図としている



上部案内筒とスリーブ下端の2点でIVTMが接触する場合、芯ズレ角度が最大の約0.06度となる

芯ズレ角度が最大の約0.06度の場合下部ガイドとの接觸位置での最大ズレ量(据付誤差約2mmも考慮)は炉心中心側(180°側)で最大8.4mm、炉心外側(0°側)で最大約4.6mmとなる
以下に最大8.4mmずれた場合の接觸を示す



一方、レーザ計測等によりIVTMは定位位置に着座していることを確認されていることから、IVTM回転ラック部は正常に挿入されている

芯ズレ角度: 約0.06度

炉心中心側に芯ズレを生じた場合

図12.3-2 IVTM本体と下部ガイドの接觸例

挿入前状態

内側案内管 $\phi 460\text{mm}$

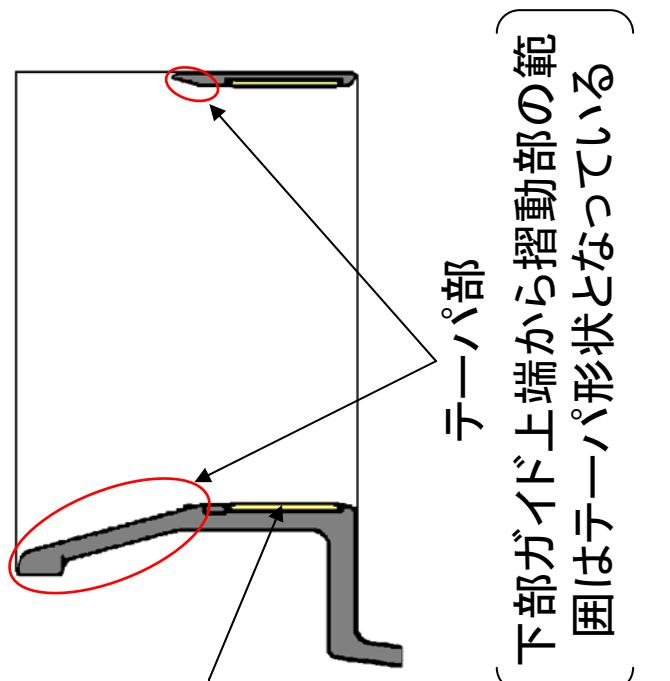
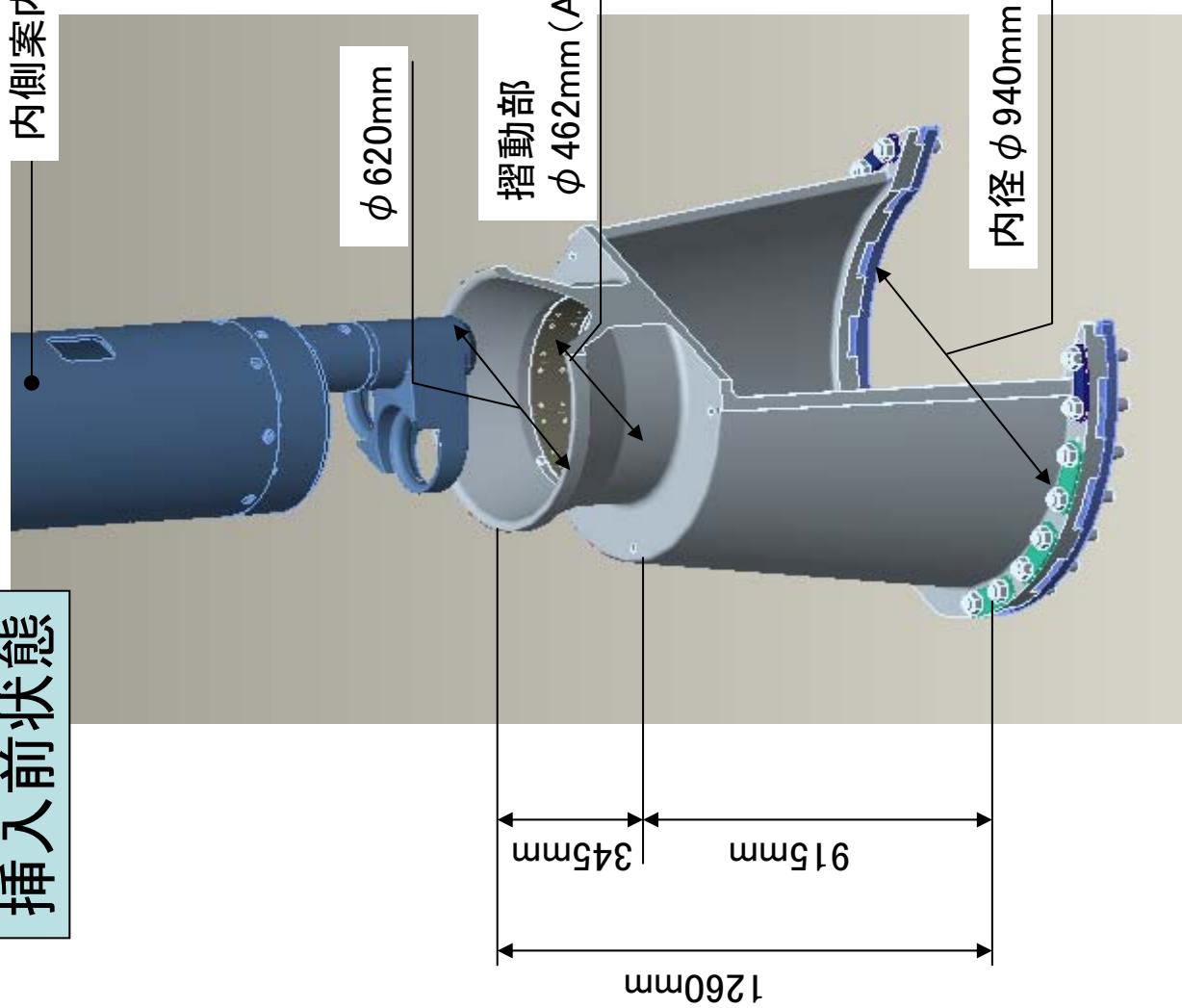


図12.3-3 IVTM本体と下部ガイドの関係(挿入前状態)

正常挿入時状態

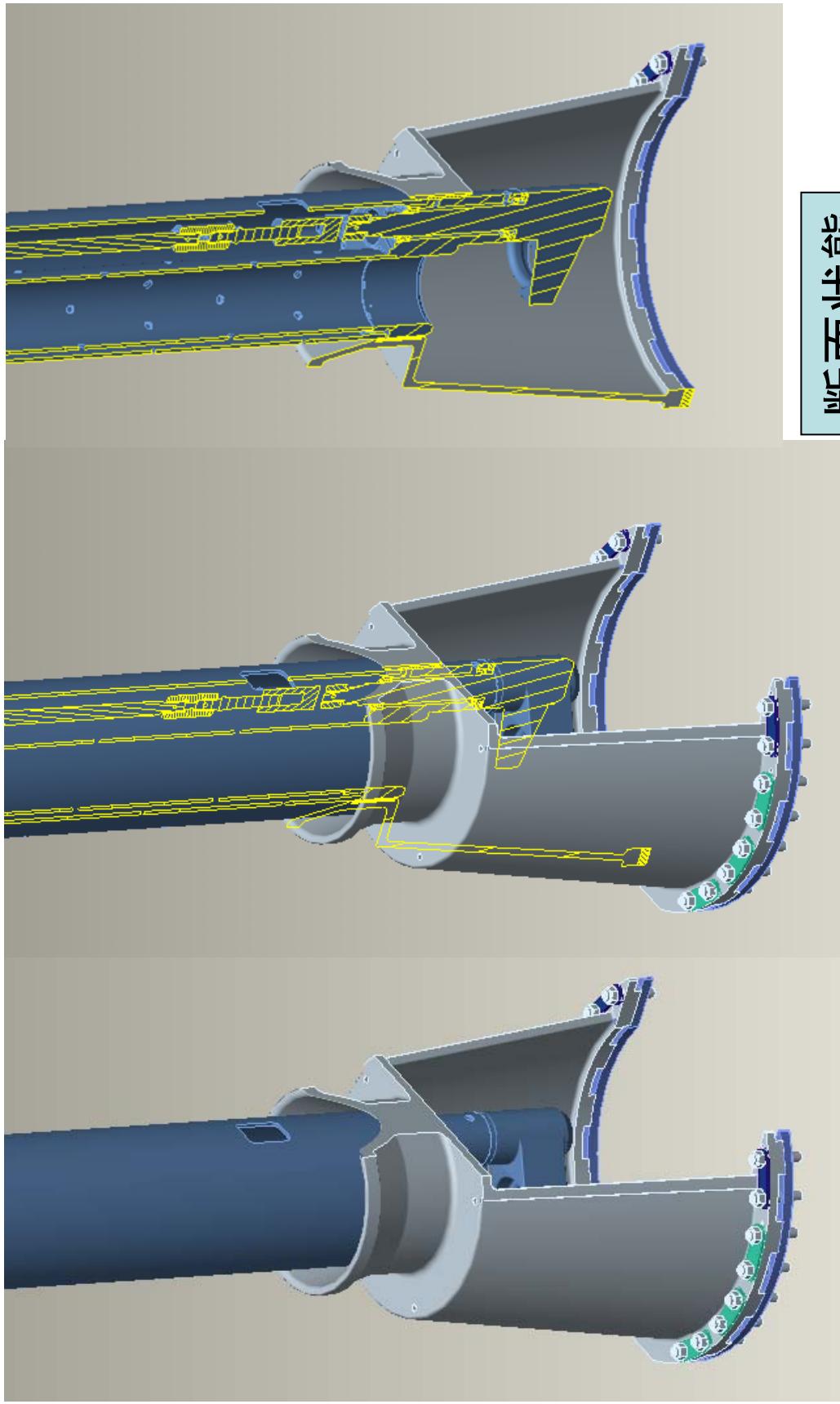


図12.3-4 IVM本体と下部ガイドの関係（正常挿入時状態）

IVTM本体の最大傾きを考慮しても、IVTM本体は下部ガイドバー部に接触するにとどまり、下部ガイド上面に着座することはない。

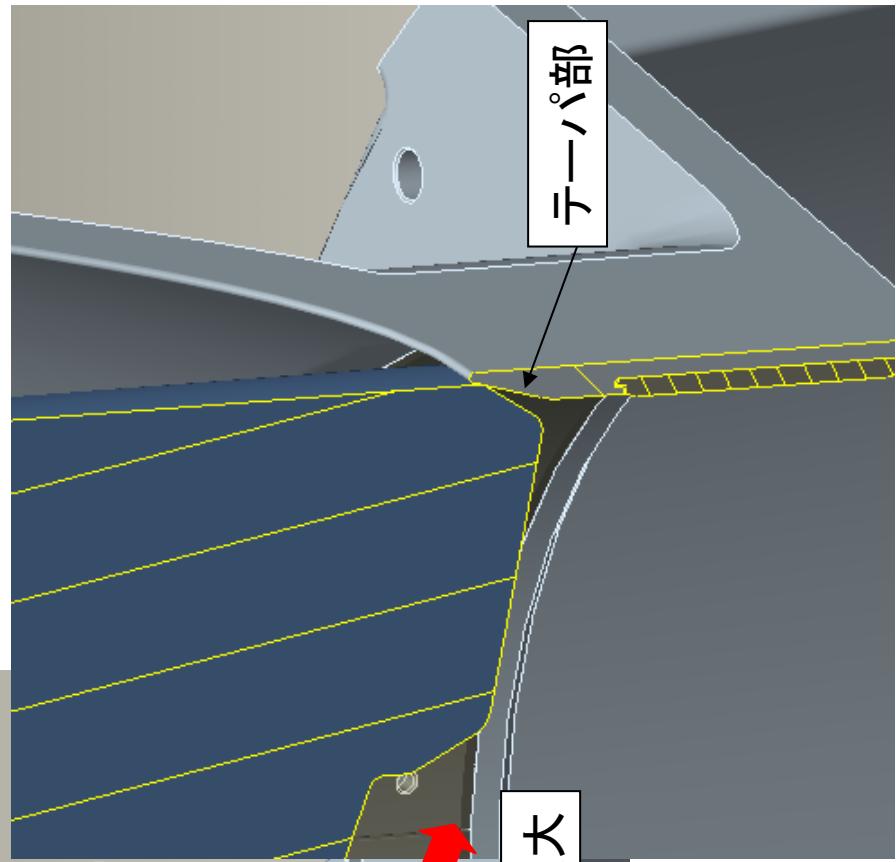
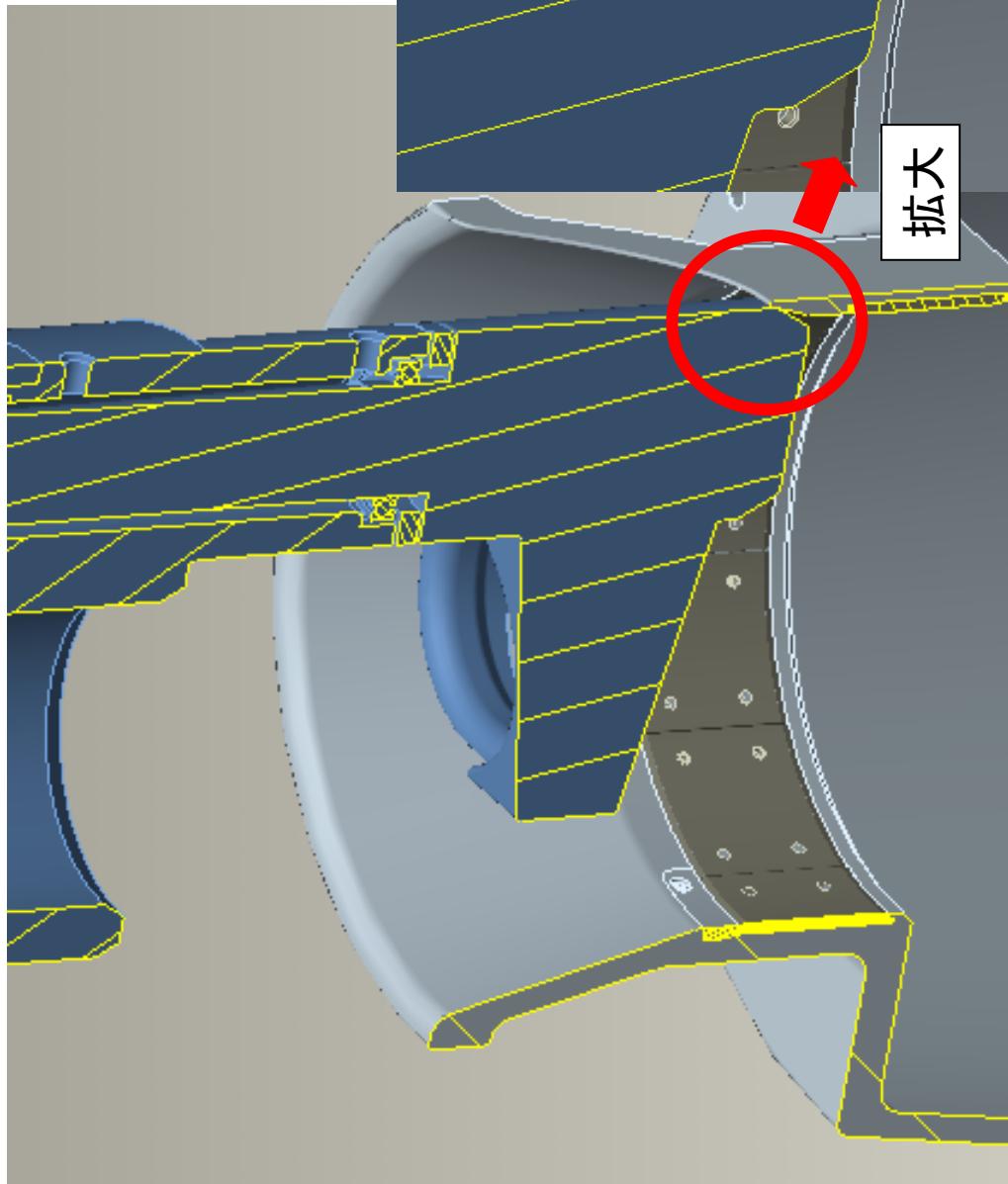


図12.3-5 IVM本体と下部ガイドの接触評価